

「食肉通信」2011年7月5日号にて、日清丸紅飼料株式会社の「ハーブ事業15周年」の記事が掲載されましたので、ご紹介します。

第2948号 (第3種郵便物認可)

業界のリーディングカンパニーとして進取の姿勢で業容拡大を続ける日清丸紅飼料。その商品開発力とブランド戦略の実践により、生産から販路開拓に至るまで幅広い局面で評価を獲得している。同社のブランドとして確立したハーブ事業は、



東日本を含むトンカツ浜勝全店舗でハーブ豚がメニュー化された

15周年を迎える。統括事業「ハーブ村」を立ち上げ、ハーブ飼料とハーブ畜産物の開発販売、サポート事業を展開

飼料業界のリーディングカンパニーとして進取の姿勢で業容拡大を続ける日清丸紅飼料。その商品開発力とブランド戦略の実践により、生産から販路開拓に至るまで幅広い局面で評価を獲得している。同社のブランドとして確立したハーブ事業は、

これまで、事業規模は60億円と成長を続けている。「ハーブ村」は主に①差別化畜産物事業②サポート事業で構成され、①

②ではハーブ畜産物を扱う量販店や外食、食肉加工卸に対する規格提案や調達をサポートす

日清丸紅飼料

る。

基幹商品の「ハーブ豚」の生産量は年間出荷18万頭まで増強。健康志向とおいしさが支持されているのはもちろんのこと、販売先へのキメ細か

なサポートにより商品の付加価値を高めていることが結実し、年間15万頭

（浜勝ハーブ物語）と連携した商品を開発。②ではハーブ畜産物を扱う量販店や外食、食肉加工卸に対する規格提案や調達をサポートする。

トの「どんかつ浜勝」の再強化する。生産農場が大きく変化している訳でないが、顧客からハーブ豚専用飼料の供給が得られてきたが、その実績が評価され、ことし4月から東日本地域を含む浜勝全店舗でハーブ豚の販売が開始された。

たとえば、量販店では欠品のないよう常時余裕を維持した。

ハーブ事業15周年に

販売先のサポート充実

任を果たすことができたと思う

「また、東北産ハーブ豚については、と畜場や輸送燃料の問題で供給が

る。ハーブ豚を供給している。ハーブ豚ヒレカツ、同ロースカツ、同極上メンチ、チキンカツ、PBとして供給されているハーブティなどハーブ豚は切り口としたメニューを切り口としたメニューが大々的に訴求され、順調に推移しているという。今期の取り組みについている。

ある生産が求められ、最需要期にもしっかりと対応できる供給体制を整備する。トンカツ店などを切り口としたメニューでは相当量のヒレが動くが、他市場への供給先どちらが大々的に訴求され、順調に推移しているといふ。今期の取り組みについている。

豚については、と畜場や輸送燃料の問題で供給が厳しい状況もあったが、生産農場、と畜場、流通関係先の強力な協力により輸送体制も確立し、ハーブ豚供給を継続することができた。今後もハーブ豚の安定した生産供給をしっかりと供給するため、生産面のフォローを発生直後、とにかく家畜化」として東日本大震災の体制を継続していく